



2020年度「温室効果ガスインベントリ相互学習」の結果について

令和2年度環境省温室効果ガス排出量算定方法検討会（第1回）

2021年1月27日



■ アジアにおける温室効果ガスインベントリ整備に関するワークショップ（WGIA）とは

環境省と国立環境研究所が、アジア地域諸国の温室効果ガスインベントリの精度向上と、地域の協力関係の促進を目的に、2003（平成15）年度より毎年開催しているワークショップ。

※ WGIA：Workshop on Greenhouse Gas Inventories in Asia の略

■ WGIAの中止と温室効果ガスインベントリ相互学習の開催

2020（令和2）年度は、新型コロナウイルスの世界的な発生状況を踏まえ、感染拡大の防止という観点から、本ワークショップの開催を中止とした。その上で、WGIAメンバー国からの実施要望などを受けて、「温室効果ガスインベントリ相互学習」を実施することとし、7月21日（火）、22日（水）、28日（火）の日程でオンライン会議を行った。

※ WGIAメンバー国：ブータン、ブルネイ、カンボジア、中国、インドネシア、日本、ラオス、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、フィリピン、韓国、シンガポール、タイ、ベトナム

■ 温室効果ガスインベントリ相互学習とは

インベントリの分野別に2か国間で意見交換を行う活動。互いのインベントリを詳細に学習し、意見交換を通じて改善を図るべく、参加国のインベントリ担当者同士が、お互いのインベントリやその作成に係る国内体制の整備について、事前にメールで質疑応答を行い、その上で議論する。今回はオンラインで議論を行う初の試みとなった。

■ 温室効果ガスインベントリ相互学習の成果

- 参加国の国別報告書(NC)・隔年更新報告書(BUR)におけるインベントリ報告の「測定・報告・検証(MRV)」および透明性に関わる能力向上支援と、インベントリ専門家等のネットワークの更なる強化がなされた。
- 国独自の算定方法の開発やパリ協定のルールのもとで適用が義務化される2006年IPCCガイドラインに基づく方法論の導入に前向きに取り組むなど、インベントリを継続的に改善していく姿勢が参加国に見られた。
- 相手国の方法論に加え、データ収集やインベントリ作成のための国内体制についても深く学習することにより、それぞれの国がパリ協定のもとでの定期的な報告を見据えた今後のインベントリ改善への参考とした。

実施分野	分野横断事項	エネルギー分野	農業分野	LULUCF分野
参加国	インドネシア	カンボジア	中国	シンガポール
	日本	ミャンマー	日本	モンゴル

温室効果ガスインベントリ相互学習の実施分野と参加国。4分野を実施し、7か国から総計36名が参加した。



オンライン会議の様子

■ 今後のWGIAについて

次回WGIA会合については、新型コロナウイルスの各メンバー国における収束状況等を踏まえた上で、開催地および開催時期、開催方法等を検討・調整していく。